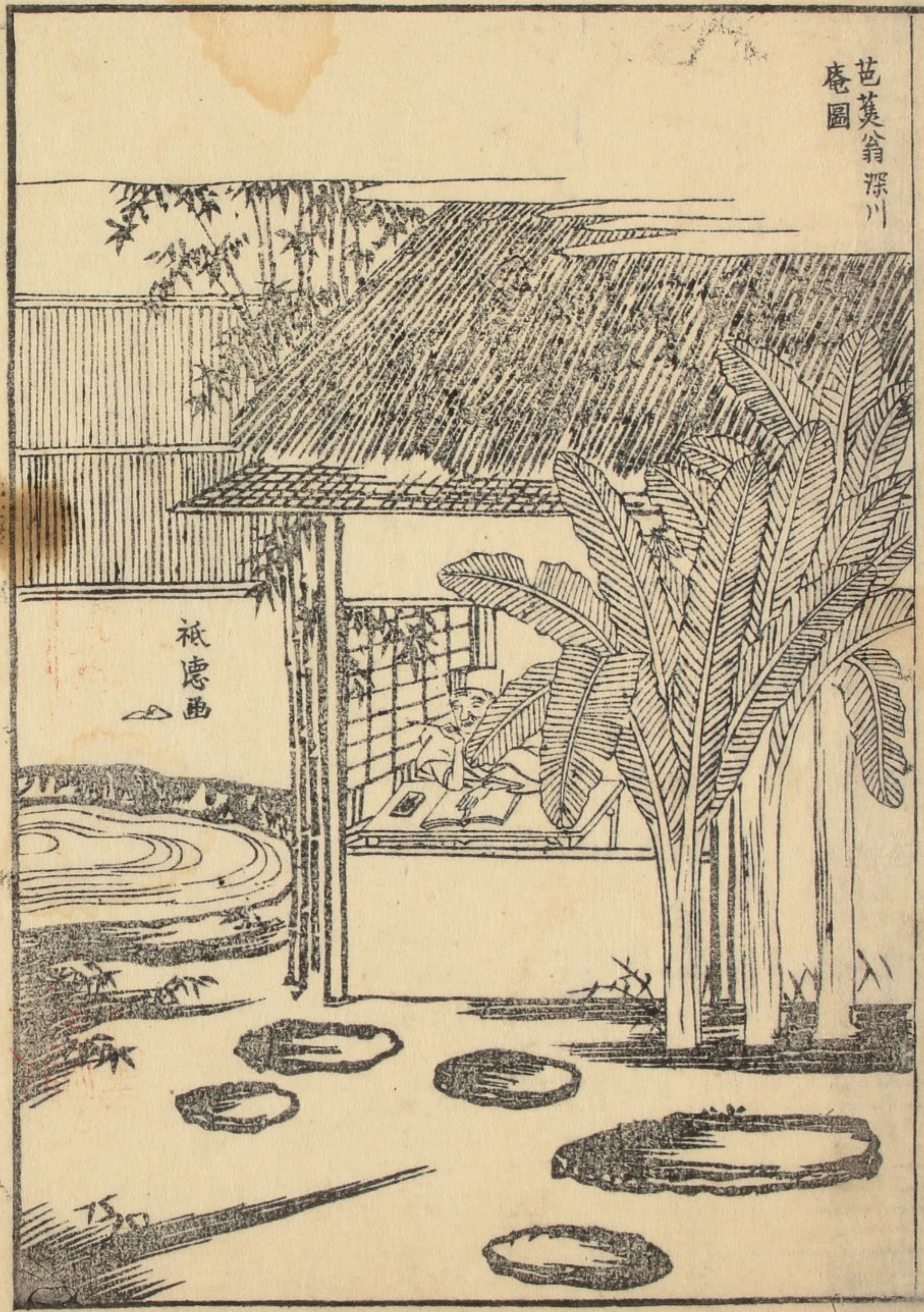




芭蕉文集
天





芭蕉文集序

芭蕉翁善滑稽者滑稽危言也從曼倩之後
 肇立言於經世古今集采寫雜體於和歌
 可稱創體然則曼倩所為庾辭隱語而有
 今集專取諸風雅皆覆正諫而射中於危
 言耳證一言曰天道恢諫言微中是之

謂乎鳥之啞，鶴之喑，奚謂此詠之言也。
卮言解頤，不窮竭微辭，解紛翠宇，假鄉音。
於天籟，至今泣鬼，感神則譚，與倭歌何分。
貞德氏季，吟氏為唱，首建滑稽之一家，而
芭蕉氏據二家，頗至其妙，或詫巧於自然，
音致遠，巡奮山嶽，其聲餘而為文者，碎玉

截錦大垂斯文，軌範後來好隱者，樹頰
咳伊優亞相唱，天下滔皆是也，芭蕉氏素
家逆旅，東漂西泊，逸天壽所吟詠之鄉，
藻彼此散在，共甘人朽，去余拾收其遺文，
歲刺於文房，頌之同志，傳曰：翁姓松名桃，
青歸柳，裔伊賀州，人性愛風雅，事

與其角素堂之徒相唱和為藻雅之士

見敬重云

龍山 小林風德珠剗撰



容明書



芭蕉文集天之部

江都

小林風德編集

松島賦

地もくくもゆかあし以上松島の杖葉才二此好風
て凡洞之西湖北より東南より海をへて江の
くち之里湖にまの湖は行くゆ七十三時敷百九時
歌つものいふは指片一ゆすもれを波ぬ南島ふりふ

屈曲のつゝためもゆるし其も氣也宵想として
美人の顔は移りもま振沛のしゝうも心すみれ
はせもいあや遣代りたういづれの人々集とあひ
詞とあはれし

月見賦

一 琵琶湖の月みんとてさうくも名守あ縁縁
して膳前ねあふ人とて催すよし列の酒は推うく
いつ三川よと見れ名とつて入西芳の集はつては信来よ

一 懐かしきもあはれし今宵の集よは酒とて何據の
人よ一酒よとてはく酒雲の灯よあふて其集玉引
歌と酒一と叶は月よとてあふく其酒と集よ
詩と吟すま唐にうく末節の老ぬ智月の物も
あつとあふれしあはれあはれあはれあはれあはれ
惟然に脚はほあはれあはれあはれあはれあはれ
字も同字よとてあはれあはれあはれあはれあはれ
海と其外の名もあはれあはれあはれあはれあはれ

まのくさすての歌中八徳の抄ひあし人徳やんくの
法師たよらりてつくりぬあれひかきかき見ら
徒あやとあひひまの世の世の外は月
相とらるる

あつたつと今宵は月る客

かくて三杯の真あきつ湖水の月と舟は入る
おぬ人乃風情とえらる杖に物草は座をさ
おけしは麻は葉親乃若男あれと赤松は舟の

こりてはあつたつと今宵は月る客
鏡り山とあつたつと今宵は月る客
つあつたつと今宵は月る客
高相のあつたつと今宵は月る客
あつたつと今宵は月る客
あつたつと今宵は月る客

く月や湖水のうふ七小町

はとて我朝のあつたつと今宵は月る客

しんしん月さるる襦袢共西湖ぬ越女の粧とたよ
いづれ風解れ名よおとそ今世もわたりよほはるんや
あまも初漢の名蹤ありりしはて松本ぬ舟とに
よそ茶店の欄干ぬとこふて六目いしを世の
水と舟とすすむたは美若り露よるるあふ井乃
林乃酒も時あて松の口乃鶴乃入るあまや松乃
かふく月ぬぬおぬる幸の幸もひらわたり
古き教の名もやうりぬ尾花川のぬたれと

おね尚白と鴛一ぬれとねいもや五更よとぬ
と井寺れ門たうりやうり月
まことや推ぶらむしあう舟ぬ今宵の粧ひと
中夜ぬ韓念々文章よもたむしし買ふあう待賦
もとまぬへき詩人文客ぬさうしゆたに人赤紙れ
若後ぬあも其地ぬ人ぬしゆへきやとみぬあま
おのよとわんあう風はとわらうあまよ月ぬと
ふれぬの間一入ぬ

信句有十切カ

既望賦

日月の光魚の影をまはす今宵のこころはあはれ
舟と望月を浦のほとりに見ればこころあはれ
何某成るも人の心はこころをこころに
月あはれこころをこころにこころに
何のこころをこころにこころに
こころをこころにこころにこころに
切目たはぬあはれこころにこころに

のて各千の船の言はは程は月あはれこころに
湖上にあはれこころにこころに
日月のほ見まはれこころにこころに
今宵あはれこころにこころに
こころにこころにこころにこころに
こころにこころにこころにこころに
こころにこころにこころにこころに

はりくれを惜むるも

東順傳

老人東順、核氏あり其祖父江州豊田の農士竹氏と
稱す核氏ありその晋より母方ありしと云ふ
本草に「也」秋八月とある核のよめありて花の
情愛は出づる思ひがもの成るやわがそ涙を
とす終る史料の白はかみして大京典の春を
着る時隣はさひて恒の春をいふ何某は

信濃と傳へく、金奥殿の愁よりけり
世治よりいひく名々の衣をゆか核とけり業を
既ぬ十年たりのあり市店と山指ありて雲む
筆はとありし机とけりぬもや核の其筆は
車にありしと云ふ上ありて東地は核と云ふ
是かあり大徳朝市の人あり

入月のありはれり四隅の地

東門辞 送許六

たよきものありけり人の強よめす故人の家
たよきものありけり南山大師の筆はさめよんか
風神もまじりて能くかめては若し
卯よかりてつらぬもの

納涼辞

西粟丸の涼源とて夕月照ればよき有明と見え
川中ぬ涼とありてつらぬもの物さひけり
昔れしよひぬめく男の月夜ありて

法師老人ともよ交り桶や紙法やれり
時得難よひのこころにたより

川見やうすきものつらぬ

芭蕉と柳辞

菊の赤離よ常え赤の紅白の是非ありて世人のけり
たす水清うらむ花さすつらぬの道や柳とは

水橋のあはれ地富土の對して東門京に居てあはれ
 湖江の潮とまじり流はたしく直にみへ便りあり
 くれと初月の夕よの雲はひ雨はさしし名月れ
 ともあひめとてまじり世に其の累廣く
 琴とあはれよはれはあはれは風をたれは
 いまもあはれ廟やあはれは心はたましく花は
 とあはれあはれまじりあはれはあはれし御山中
 材乃類あはれたるして其性もあはれし僧懐あはれ

こはよ筆とらりりめ流橋集の初巻とて修書の
 力とあはれあはれ予其命のいはれとて只は流はたれは
 風雨は破れやあはれはあはれし

贈許六辞

本曾流はあはれ四里あはれ人あはれ川氏許六とらり
 いあはれあはれ流はあはれ情あはれ人くはれしあはれ
 予靴あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 こはあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

表より右のつらぬも樞のすしうち付想うるは
るわくて田つらぬは浅つるれかりつらぬもかみりもれ
膳飛あへるもはあへるもあへるもあへるもあへるも

煤揚やく水行のなりき 軒

文字摺石

愚ふの都とのれ里とるや文字すれ石おとる方二間
らうちあへる石ありはるひじり女のあひあへるあへる
甚由よ文字のつらぬや山並摺みあへるあへる

うちあへるあへると今ふ谷間おはして石西トは南
いしあへる同摺もあへるあへるあへるあへるあへる

早苗とるあへるあへるあへる

壺碑 在奥州市川村多加賀城

つたれ石あへるあへると六尺のまの横とるあへるあへる
穿く文字かすあへるあへるあへるあへるあへるあへる
神皇元年按察使兼鎮守府將軍從四位上勳四等
東人之所置也天平寶字三年歲次壬寅冬議東海

東山節度使從四位上仁部者卿兼按察使鎮守將軍
 藤原惠美朝臣獨修造也十二月朔日とあり一聖武
 皇帝の時時中面よりひりより清なる秋まら
 おやくかち傳あといふも山をい川をくさひりま
 石の埋して去よかりしもの老く若きよかりし時
 代変りて其路にりあぬものさばくぬり
 疑ひあきき事代祀念服まのあ古人の心は園寸行脚
 一得存余れほし齋様は昔ゆきして流かつるるか
 あり

閑閑況

色は君よれあふしむめく佛とみ戒のくめよ
 いともさうし掬くま情れはあへにのこしあ
 かしくもまきし一人をいぬくぬのふれ梅りま
 梅のあふみのゆけ白ひあふくあふの思ふ人
 園もあふ人あへにらあまはまはまはまはま
 かのあふみのほろ梅め袖あひして家かゝるあふ
 あふあふあふあふと老のあふりあふあふあ

其後の中は魂はさへめておのほろほろと（まじり）
らるるにまじりて罪はかへぬ一人も平に帰るわ
してその感あふまゝのうらやま平家年あつてあり
老のまじりて事一快の者もこゝろ平年六十のれ
歎こふくちのうらやまはさして宵に寝るに
ゆきしるゆきえのふらふらとさうらうとあふま
思ふもまじりて悩増もこゝろ一歳もくぬもの
是れは勝ものあつて是れはこゝろせしめあふまのうらや

今貞敬の魔夜よ心は怒らう溝洫あかたは安き
るのうらやまと南華光仙の唯利害は徳都一老
若くはまじりて閑ぬあつてしこを老れ樂はこゝろ
人まじりて世用り年あつて出くはれりか事あは
さましこゝろまじりて孫敬うるは聞て杜五郎の門と
流さしめあふまおはともこゝろ貞とあつて
五十のうらやま自書して自林系戒とあは
ゆるやまのうらやまの流るる門の垣

情づく 埒しやうじりハ西施ヲ推袖のうんを黄金鑄
 小紫上御人の園うららめハ衣裾あきれかゝるまふり
 下れ品あは有るより親まひの娘婿結らたしきと
 阿つよ寺の思歌舞の若流の情ともすくす白氏
 うは修名めやいして福と救ふたよあんとす其
 語意動と虚室は口のくは實の鼎め白ゆ結く
 新ら泉よ文字いきたし是あはに他れ實は阿らん
 けり愛あて程と益人を待芭蕉洞桃の歌あて
 上言

笈文序

百骸九竅れ中、物あひかまよ名つめて風狂坊とらふ
 誠めくすものきんぬは徳しあかんとあはれあはれ
 のれね句とぬむとくへ一終よ中座のうらまへあす
 けり時ハ健てぬ擲せんをと思ひあは時ハくみく
 人め勝むる心あはし是非胸中たたくひて是の
 首に刃安うし守るはあはれむるは強くもこれ
 ともあはれえらしむるもあはれむるは思ふも

さあ〜とあれなり後白〜くいし

骸骨画賛

本間主馬の毫は骸骨ともいふ節教より由て能
す夕水画く舞臺の怨ちも柳より雨〜
生あつたふれあ〜世あ〜いよとあ〜人や徳彌
鶴ゆ梳〜と〜強よ着〜つを〜る〜は〜もた〜これ
生あ〜い〜め〜る〜あ〜あ〜

稲藁やかかれあ〜のす〜ま〜の穂

秋仙の賛

伴福のふ杉山より風をゆれ洞乃枯葉沙吹く
其つ形欲僂と吟寸噫寤〜く〜た〜同〜音
お〜あ〜〜〜金〜あ〜ひ〜〜あ〜つ〜よ〜あ〜あ〜〜
吹〜く〜貝〜人〜と〜て〜あ〜〜あ〜人〜よ〜心〜ゆ〜つ〜く〜萬〜竅〜怒〜號
響音響〜く〜句〜毎〜の〜意味〜各〜あ〜あ〜唯〜是〜天〜の〜形
自然れ仙若色甚〜破〜して〜風〜吹〜

閑居歳

